

## 平成17年度 高知東高校 防災避難(誘導)訓練

### これまでの避難訓練との違いと今回の特徴

「地震」のみに特化した避難(誘導)訓練とする。

地震後の被害状況の把握を教職員が行い、それに基づいて避難経路・避難場所を決定する。

役割分担は、訓練時に発表する。

理由：学校は授業中が多く、特定の者を配置することが困難。被害状況を把握しながら、その時の人員を配置することが現実的である。

想定される南海地震の揺れの長さ(100秒)を体験させる。

地震後の被害状況把握の時間を活用して、災害をイメージする時間をとる。

防火扉を閉めて、そのドアからの避難を体験させる。

シューターや消火器を使った体験は行わない。(来年度に向けて、火災と地震2回の訓練の時間確保を検討)

- ・固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸がはずれて飛ぶことがある。
- ・多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。「机の下に潜る」「机の脚をつかむ」「周囲をよく見る」を指導。ただし、机の下に潜ることができない場合は、カバン等で頭を守ることを指導。
  - ・「潜る」は天井板・照明器具・窓ガラス・家具等の落下転倒から身を守るため。ただし、頭が外に出ていれば落下物でケガをする。
  - ・「つかむ」は机が移動することを防ぐため。つかむものがあると心の不安動揺が減る。
  - ・「よく見る」は目をつむっていると恐怖が増大するため。

### 11:15頃 LHR中に震度6強の地震が発生

校内放送で地震発生を知らせ、鳴動(テープ)を100秒間流す。(100秒間の長さを体験する)

**被害想定** LHR(SHR)中に、震度6強の南海地震が発生。校舎内は、ガラス・コンクリート壁・天井からの落下物が飛散しているが、通行に支障となる場所はない。また、幸い火災は発生していない。職員室は、書類やパソコン等が飛散・落下はしているが、使用できる状況である。揺れにより停電状態である。津波による浸水は、発生60分後という情報が入る。

**目的** (1) 火災や地震などの災害時における避難を安全かつ迅速に行えるよう、防災への意識を高める。  
(2) 訓練を通して、非常時の避難経路・避難場所の決定までの方法、教職員のとるべき行動を確認する。

**日時** 平成17年12月2日(金曜日)雨天決行

**準備** 校舎配置図、校内教室配置図(模造紙大)、模造紙(ホーム数)、マジック(黒・赤 ホーム数)、アンプ付スピーカー、地震効果音テープ

**時程** 10:50~11:00 掃除(通常区域)  
11:05~ SHR(放送)  
11:10~ 各ホームで地震発生時の行動について周知  
震度6強の揺れについて説明する。  
・立っていることができず、はわないと動くことができない。

### アナウンス原稿

只今から、南海地震に備えた防災避難訓練を行います。

今から南海地震で予想されている揺れの時間である100秒を体験してもらいます。放送で鳴動を流しますので、その間先生から指示があったように、行動して下さい。訓練ですが、真剣に取り組みましょう。では、はじめます。

### テープ 地震動音

100秒間の長さはどうでしたか？

いつもなら、ここですぐに避難となります。多くの方が一度に避難する場合、出入り口や階段で将棋倒しなどの事故が起こりやすいので、「オハシモ」つまり「押さない、走らない、しゃべらない、もどらない」ことが大切です。

今日の訓練では、今から、先生たちが分担して被害状況の把握や避難場所・避難経路を決めます。その時間を利用して、各ホームでは、先生の指示に従って、作業をして下さい。一つは、地震で校舎内ではどういう危険、問題が起こるのか？そのための備え？について、みんなで話し合います。時間があれば、どのようなケガが予想されるか？その時の対応の仕方？についても、話し合ってください。話し合ったことは、

模造紙に記録していきます。これから先は、停電を想定して放送は入りません。先生の指示に従って、真剣に行動して下さい。

11:17 ホーム主任・・・放送（鳴動）終了後、生徒の状況を確認

**ホーム主任（授業担任）の取るべき行動**  
 発生時における的確な指示（頭を守る・机をつかむ）  
 脱出口の確保  
 生徒の人員・安否確認（点呼・けが人の処置）  
 被害状況の確認・危険箇所からの退避指示・危険物の除去  
 生徒の不安の払拭

避難指示があるまでの教室待機の間、次の作業を行う

生徒とともに次の事項について話し合う(地震後のイメージづくり)

・校舎内ではどういう危険、問題が生じるか？そのための備えは？

(時間があれば)・どのようなケガが想定されるか？その時の対応の仕方は？

各ホームに模造紙とマジック・磁石を準備し、発言を記入していく。

模造紙への記入例

年 Hの考えた、地震による危険とその対策！

- ・ ガラスが割れる 飛散防止シートを貼る  
地震が起きたら、窓ガラスから離れる
- ・ 赤色
- ・ 黒色

避難時の注意事項を周知する

多人数が一度に避難する場合、出入り口や階段で将棋倒しなど

の事故が起こりやすいので、「オハシモ」(押さない・走らない・しゃべらない、もどらない)を守ること。

ホーム主任以外の教職員・・・放送（鳴動）終了後、校舎の被害状況を把握しながら、職員室に集合し、教頭に報告する。

特に、次の部屋にいる教職員は、分担して各教室の状況把握を行い、教頭に報告する。

南校舎・・・進路指導室・図書準備室

中校舎・・・職員室

北校舎・・・看護科・家庭科

体育館・・・体育科職員室

多目的棟・・・生指導室・LL準備室

11:30 職員室で被害状況をまとめ、避難場所・経路を決める作業を行う。校長が避難経路・避難場所・役割分担を決定し、教職員に周知する。(訓練のため、当日までに想定避難経路・分担を作成)

11:35 停電で校内放送が遮断したことを想定して、避難経路・避難場所を連絡教員が各ホームに周知する。

各階2名ずつ

避難誘導の場所等に教職員を配置

・指定の防火扉を閉める

各階の落下物等により、通行が困難な状況を想定を想定し、防火扉のドアをくぐることを体験させる。(足下・頭上に注意)

(決定された避難場所)に、避難本部を開設準備

(決定された救護所)に救護所を開設準備

役割分担(各係)

避難場所本部(開設・整列・生徒の確認等)
避難誘導係(各校舎各階端・・・防火扉の開閉、昇降口等)
救護係(負傷者の搬出)
救急医療係(応急手当・記録)
情報収集係(報道機関・電話等による2次災害の情報収集)

11:40 非常ベルを鳴らす（火災ではないが、緊迫感をもたすため）

**ホーム主任の対応**

- ・余震がないことを確認する。
- ・出席簿を持つ。
- ・避難経路・避難場所を確認し、生徒に周知する。
- ・避難誘導を開始する。
- ・最後尾の教員は、居残り生徒がいないか確認する。
- ・昇降口で靴に履き替えて、避難場所に集合する。

**余震に備え、生徒は頭にカバンを置いて、移動することを指示。**

（下校時の荷物を持って出る）

11:50 避難場所に集合

各ホーム毎に整列し、ホーム主任が点呼（負傷者も含む）を行い、本部に報告する。

準備：ワイヤレスマイク・スピーカー  
集計表

講評（校長）

12:00 解散（そのまま放課）1年生から退場

終了後、教職員は後片付け

- ・防火扉の復旧（閉めた教職員で）
- ・教室の整備（ホーム主任） 模造紙・ペン等は職員室中央へ返却
- ・避難本部・救護所の片付け

## 12月2日 防災避難誘導訓練 総括(案)

地震防災プロジェクト委員会

## 1. 成果

現実に近い方法で実施することにより、教職員のイメージづくりとともに、備えておくべき事項が明らかになった。

前々日の教職員研修会(地震防災)が活かされたものとなった。

## 2. 課題

情報収集の集約に手間取り、人的配置、避難経路の決定までに時間がかかる。

「的確な指示」が必要である。

訓練のためか、真剣さを欠いた。

## 3. 訓練で明らかとなった、今後改善すべき点

救護所の早期設置

救急医療班メンバーの固定(養護教諭・事務職員・看護科教員・実習助手)

・・・救護所を設定したら、ただちに向かわせる。

救護係(負傷者の搬出)は、自主的に手を挙げた者が、必要な場所に先発して行く。

教職員一人一人がどの係になっても良いように、役割を熟知しておく。管理職が人的配置を詳細に決めるには無理がある(時間がかかりすぎる)。自主申告方式が早いと思われる(同時に点呼も行う)。

避難場所本部や情報収集係は早く決定し、準備にあたる体制をとる。

災害に備えての準備物(災害対策本部用、職員室に)を箱に入れて備えておく。

- ・校内配置図・校舎見取り図(模造紙大)・色マジック
- ・生徒名簿　・教職員名簿
- ・ハンドマイク　・携帯ラジオ
- ・記録用紙(ノート)

「訓練」の実施要項については、詳細な説明と意思統一が必要である。

## 4. 今後の様々な場面における訓練

- ・ホームルーム中
- ・授業中
- ・休み時間(移動時間・昼休み)
- ・清掃中
- ・放課後(部活動中)
- ・集会(行事)中
- ・登下校中

来年度は、4月(身体測定時に、総合防災訓練・・・火災想定、避難路の確認、シューターの体験、消火体験など)、12月(地震想定)の2回実施を検討

## 5. 今後、実施・検討すべきこと（すぐできること、中長期的にすべきこと）

- ・勤務時間中の管理職・教職員・生徒の対応マニュアルの作成
- ・学校外の行事（遠足・部活遠征等）の管理職・教職員・生徒の対応マニュアルの作成
- ・勤務時間外の管理職・教職員・生徒の対応マニュアルの作成
- ・生徒・教職員および地域の避難所としての開設準備・運営支援のマニュアルの作成および訓練
- ・保護者への引き渡しに関する要項の作成および訓練
  
- ・災害発生時にリーダーとなる生徒の育成 「地震列島と私たち」の充実  
生徒会各種委員会の位置づけ  
（例）保健環境  
交通安全 防災安全に改称  
教職員の力だけでは、災害後の事態に対応しきれず、また生徒の不安を押さえきれない。一定の知識と行動力を持った生徒が必要である。
  
- ・教職員のみによる図上訓練
- ・校内への飲料水・食料の備蓄方法の検討、資機材の設置
- ・校舎ごと・各階ごと・各教室への救急用具の配置  
救急セット（医薬品、包帯、三角巾）、竹棒2本（担架用）、ロープ
- ・生徒の心理的ケアに関する研修
- ・地震への設備面での備え（窓ガラス、家具・パソコン等の固定など）
- ・避難所体験
- ・地域との防災に関する話し合い

## 12月2日 防災避難誘導訓練 ホーム主任アンケート

各ホームで2人が相談して、もしくはどちらかが記入してください。

今後の取り組みの資料としますので、以下の質問に答えて、職員室中央の机上にある箱にお入れ下さい。ご協力、よろしくお願いいたします。

地震防災プロジェクト委員会

( )年生

・地震発生時、生徒は机の下に潜るか、頭をかバン等で保護することができましたか？

1. 全員できた      2. 半数以上できた      3. ほぼ半数はできた  
4. 半数以上できなかった      5. 全くできなかった

・生徒は、教室での作業（危険箇所とその対策等の討論）に積極的に参加しましたか？

1. 参加していた      2. まあまあ参加していた  
3. あまり参加していなかった      4. 全く参加していなかった

・生徒は、避難する時、「オハシモ」（押さない、走らない、しゃべらない、もどらない）ができていたと思いますか？

1. できていた      2. まあまあできていた  
3. あまりできていなかった      4. できていなかった

・生徒は、余震に備えて、頭にかバンを置いて避難できていたと思いますか？

1. できていた      2. まあまあできていた  
3. あまりできていなかった      4. できていなかった

・下のホーム主任のとるべき行動はできましたか？

ホーム主任（授業担任）の取るべき行動

発生時における的確な指示（頭を守る・机をつかむ）  
脱出口の確保  
生徒の人員・安否確認（点呼・けが人の処置）  
被害状況の確認・危険箇所からの退避指示・危険物の除去  
生徒の不安の払拭  
教室を離れない

1. できた      2. まあまあできた      3. あまりできなかった  
4. できなかった

・今回の避難訓練で、ホーム主任として困ったことがあれば記入してください。

ご協力ありがとうございました